



写真：「旧音声学研究施設」・千葉勉  
(上智大学・国際言語情報研究所・音声学研究室所蔵)

東京外国語大学文書館企画展

# 「千葉勉と東京外国語学校音声学実験室」

期間：2016年9月20日(火)～9月30日(金)

会場：附属図書館1階 ギャラリースペース

TEL：042-330-5842

E-mail: [tufsarchives@tufs.ac.jp](mailto:tufsarchives@tufs.ac.jp)

協力：日本音声学会・上智大学

【右】約80年ぶりに帰還する口腔図ガラス板



企画展に合わせ講演会も開催します。是非ご参加ください。

◆講演：Preserving some lost work of Tsutomu Chiba (1883-1959)

講演者：Michael Ashby (Honorary Senior Lecturer in Phonetics, University College London (UCL))

日時：9月20日(火)15:00～17:00

場所：東京外国語大学本部管理棟2階中会議室

※入場無料・講演は英語 ※協賛：日本音声学会

※当日、Ashby教授から本学立石学長への「千葉勉口腔図」の寄贈式典が举行されます。

戦前の東京外国語学校には世界水準の音声学実験室がありました。実験室の責任者を務めた千葉勉は、音声学研究に自然科学、なかでも物理学の導入を進め、実験室にはX線装置、カイモグラフ、マイクロフォン、電磁オシログラフなど、当時の世界最先端の装置が設置されていました。

この度、同実験室で作成されたX線写真を元にした口腔図(発声時の口から喉の形状の変化を表した口腔図、幻灯機映写用のガラス板、表写真)が、ロンドン大学(UCL)において発見され、同大学Michael Ashby教授の手により約80年の時を経て、東京外国語大学に帰還することになりました。

## 1. 千葉勉(1883年-1959年)略歴

1907年東京帝国大学文学部英文学科卒業。

1913-16年文部省より英国に派遣(留学)され、ロンドン大学(UCL)にて当時世界的な音声学研究の第一人者であったDaniel Jonesの授業を受講しました。帰国後、東京帝国大学講師と東京外国語学校講師を併任し、1919年から東京外国語大学教授に就任します。約30年に渡り戦前の東京外国語学校英語部を牽引するとともに、1928年には文部省特別予算を獲得し、翌年日本で2番目となる音声学実験室を設置、世界水準の音声学研究を進めました。

同実験室での研究成果を踏まえた『母音論』(The Vowel, Its Nature and Structure. Tokyo-Kaiseikan, 1941)は、今日に至るまで言語学・音声学の古典とされています。1945年、同校を定年退職した後、1950年より上智大学教授に就任し、同大学において音声学実験室を創始しました。

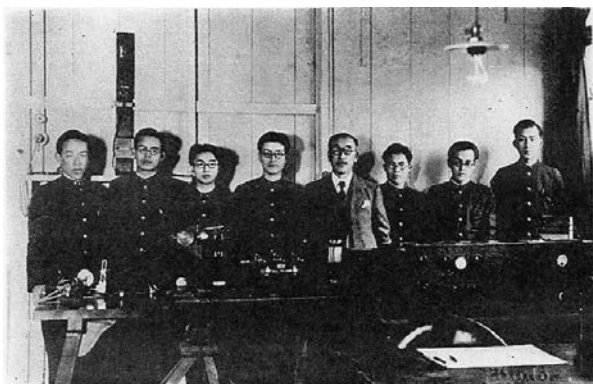


「旧音声学研究施設」マイクロフォン  
(上智大学・国際言語情報研究所・音声学研究室所蔵)

## 2. 東京外国語学校音声学実験室

1929年当時、東京外国語学校は皇居の外堀、麹町区竹平町に位置していました。「(音声学)実験室は木造の細長い校舎の東端にあり、廊下を含めて東西に四間、南北に九間半の大きさがありました。南から北へ千葉教授室(七・五坪)、X線室(四・五坪)、防音室(四・五坪)、実験室(一四坪)、暗室(二坪)の順に並んでいました」(梶山正登「千葉先生と旧音声学実験室」『千葉勉の仕事と思い出』参照)。

実験室にはX線撮影装置、カイモグラフ、マイクロフォン、電磁オシログラフなど世界最先端の技術水準の機材が並んでいました。その他、「防音室などは狭いながら殆んど完全なもの」があったと言います。当時、最先端の研究機材であったため、日本放送協会から録音機の貸与の申込があったと言います。



東京外国語学校音声学実験室において千葉勉(右から4番目)と学生たち(1930年頃)

### 【資料・情報提供のお願い】

大学文書館では資料の収集事業を強化しております。御寄贈頂ける資料或いは関連の情報がございましたら大学文書館までご連絡下さい。

Tel: 042-330-5842